

☆障害者と社会つなぐ分身ロボ 東京のカフェ、福岡からも接客

【西日本新聞 me】 2021/11/3 <動画付き>

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/825951/>

> 車いすや寝たきりの生活を送る障害者がロボットを操作し、自宅から離れた店で接客する。そんなカフェが東京・日本橋に開店した。障害者だけでなく、介護などで外出が難しい人にも社会参画の機会を広げる狙いがある。九州に暮らす障害者の「分身」も働く店を訪ねた。

東京駅から JR で 1 駅のオフィス街。幹線通り沿いのビル 1 階に、分身ロボットカフェがある。席に座ると、高さ 23 センチの分身ロボット「OriHime (オリヒメ)」がテーブルの上で出迎えてくれた。

「こんにちは。寧音 (ねね) と申します」。オリヒメから女性の声が聞こえた。そばにあるタブレット端末に映るメニューの説明を受け、アイスコーヒーを注文した。

声の主は福岡県飯塚市の大学 1 年、中島寧音さん (19)。生後 11 カ月で脊髄性筋萎縮症と診断され、寝たきりの生活を送る。自宅のパソコンからインターネットを通じ、オリヒメに搭載されたカメラやマイク、スピーカーで相手と会話を交わす。頭や手も動かせる。

中島さんは、特別支援学校高等部 2 年の時に、カフェの試験的な営業に参加した。「アルバイトなんて考えもしなかった。全国の人とつながり、狭かった世界が広がった」。社会福祉士を目指して大学で勉強しながら、週に 3 日ほど 1 日 1 時間働く。

約 300 平方メートルの店内はバリアフリー仕様が施され、別の人が操縦する自走式の分身ロボット「OriHime-D」がアイスコーヒーを届けてくれた。物販コーナーには、福岡県筑紫野市の山本順子さん (53) が操るオリヒメがいた。

2014 年に重症筋無力症と診断され、急激に歩行が困難になり家事や仕事もできなくなった。「自分はいるだけで迷惑を掛けている」。苦しみはカフェに救われた。「諦めていた仕事をまだやれる」と声を弾ませる。

店では、遠隔で働くために全国の約 60 人が登録。筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に加え、家族の介護で外出が難しい人もいる。

オリヒメを開発するのは、12 年設立のベンチャー企業「オリ研究所」(東京) だ。16 年には肉体労働が可能なオリヒメディーの開発を始めた。実際に障害者が遠隔で働ける場として、カフェの運営も手掛ける。

背景には障害者の雇用が進まない現状がある。内閣府の今年の障害者白書によると、国内の障害者は推計約 965 万人で全人口の約 7.6% を占める。しかし 18 年の調査では、5 人以上の事業所で働く障害者は 82 万 1 千人にとどまった。

カフェの名前は「分身ロボットカフェ DAWN ver.β (ドーン バージョンベータ)」。18 年 11 月から期間限定の試験営業を計 4 回積み重ね、今年 6 月に常設店としてのオープンにこぎ着けた。運営資金は NTT や三井不動産など 10 社から協賛を受け、インターネット上で資金を募るクラウドファンディングでは目標を大幅に上回る約 4400 万円を集めた。

理念は広がりつつある。現在、東京都のモスバーガー大崎店や港区役所、大阪市のチーズケーキ店など、期間限定も含め全国 5 カ所ほどに導入。国内外から問い合わせも増え、カフェの地方展開も検討中だ。

研究所の広報担当、浜口敬子さんは「カフェを外出が困難な人が社会との接点を取り戻す場になりたい。『分身』が働く姿を見て後に続く人が出る好循環が生まれたら一番いい」と語る。

ロボットとの不思議な対話

分身ロボット「OriHime (オリヒメ)」と会話するのは、目の前の人と話しているような不思議な感覚だった。

遠隔で操作する「パイロット」は、オリヒメの両目の間にあるカメラで相手を見ており、左右に頭を動かしたり、手を振ったりすることができる。

「自分で見たい方向を自分の意思で見られる」。山本順子さん (53) は説明してくれた。「その場にいる感覚で話ことができ、ロボット越しで働いているという感覚はないんです」

カフェで接客してくれた中島寧音さん (19) とは、1 時間ほどオリヒメを通じて話をした。中島さんは盛んに頭や手を動かして、話の合いの手を入れてくれた。どこで話を切り替えればいいのか、タイミングをつかみやすく、話しやすかった。

新型コロナウイルス禍でパソコンの画面越しにビデオ会議でやりとりするオンライン取材の機会が増えた。便利な面もある一方、どこを見ればいいのか、いつ質問を振ればいいのかなどで思い悩み、ストレスを感じることもあった。でもオリヒメとのやりとりは、相手の顔が見えないのに、そばにいる人と話している気分になった。

カフェでは、ローストビーフをふんだんに使った看板メニューの「ロビーバーガー」を食べた。オリヒメとのやりとりを終え、心もおなかも満たされた。

...などと伝えています。



